

道守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.8 冬号



巻頭随想

わが歌 この道を生きる 内山田 洋

特集

みちづくしin大分 道守九州会議交流会2005
九州各地の道守600人 別府に集い 語る 歩く
道の歴史や文化、地域づくりを探る

道守会議の輪

くるま座だんぎ、中津街道シンポジウム
シーニックバイウェイ 九州、東京で活発な議論を展開

[街道を行く]

長崎街道の今

道守九州会議
設立趣旨

古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起こし、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在。子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろうか。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音、心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。

私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組む人々が増えている。実践者を中心に「道を考えてみよう」という機運が高まりました。道路行政も転換期。量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渴きを潤す果樹を道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、一歩踏み出そう。



故郷を散策した。掘割沿いの道はきれいに整備され、文学碑や歌碑、木々の紅葉が印象的だった。柳川は道を大切にす運動に熱心と聞く。わが母校伝習館高校もこの活動に取り組んでいると聞き誇りに思うし、なにより美しい柳川がここにあることがうれしい。

実家は柳川市宮永町、この辺りは昔の面影も残っており、子供のころに遊んだ道が今見るとこんなに狭かったのかと驚く。やんちゃな少年時代の思い出は、ペーゴマ遊びと、喧嘩。教育一家に生まれたわたしの本名は「内山田道生」という。当時はこの名前が嫌いだ。た。「みつちゃん道々糞たれた！」と囃し立てられ、なぜ親はこんな名前をつけたのかと恨みもした。しかし今振り返れば、道生（みちお）という名前が人

わが歌 この道を生きる

生の節目にわたしを救うことになる。家庭の事情で大学一年で中退、すきんだ生活を送るなか、音楽の道を志すと決断したのも「自分の信じる道を生きる」という自分の名前に立ち返ることができたからだ。

二十一歳、白木原の米軍キャンプを中心に活動していたバンド「メデイコキューバンボーイズ」のギターリストとしてスタート、三十歳の時、内山田洋とクールファイブを結成した。昭和44年のデビュー曲「長崎は今日も雨だった」が大ヒット、五カ月間で100万枚を売り上げ、この年レコード大賞新人賞を獲得、NHK紅白歌合戦にも出場できた。生活は一変し今考えると夢のような日々が続いた。自身が作曲した「東京砂漠」もヒットした。数々のヒット曲を世に送り出したクールファイブだが、結成から二十年後の昭和六十二年に前川清が独立し大きな転機を迎えた。彼は四十歳を迎え、自分の道を進みたかったと思う。音楽に妥協はない。わたしも妥協した生活は送りたい。わたしも妥協した生活は送りたい。今自分信じる音楽の道を進むだけ。健康の許すかぎりステージマンとして歌い続けていきたい。

巻頭随想

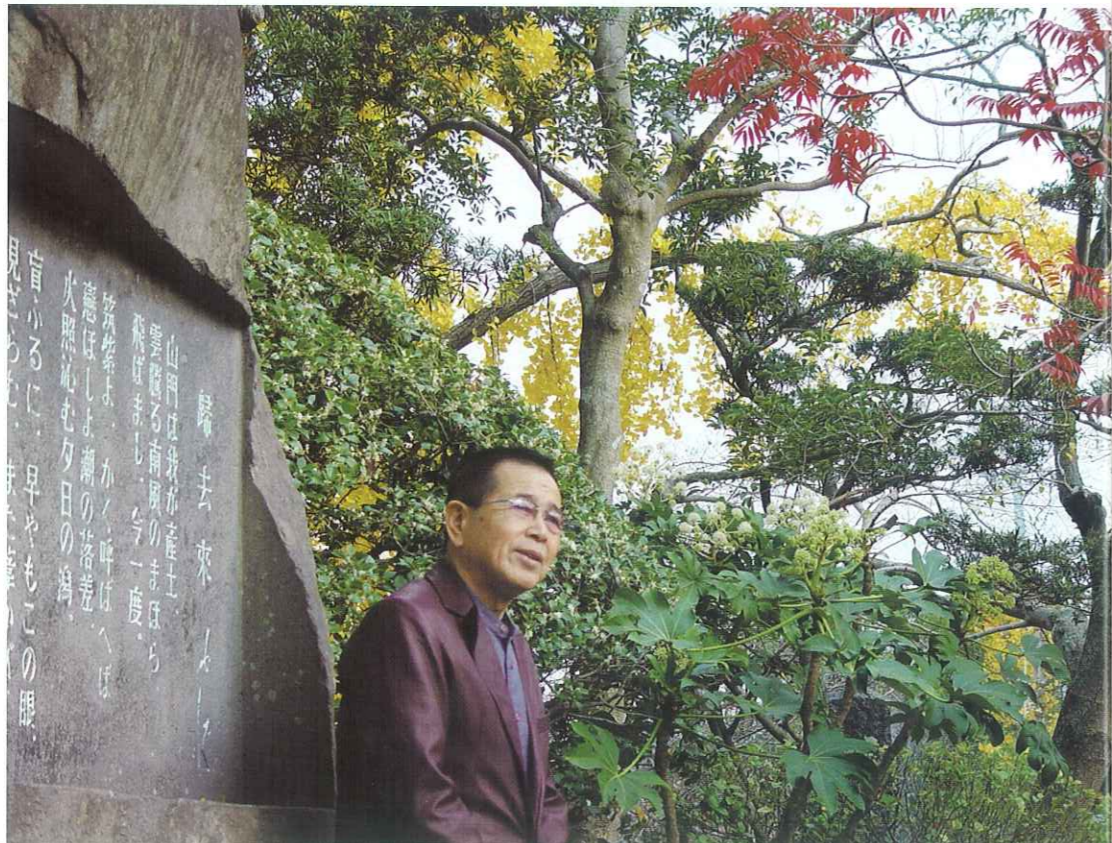
内山田

UCHIYAMADA HIROSHI

洋

プロフィール

歌手。昭和11年福岡県柳川市生まれ。昭和42年長崎で「内山田洋とクールファイブ」を結成。昭和44年のデビュー曲「長崎は今日も雨だった」が大ヒット。同年の日本レコード大賞新人賞受賞。以後「噂の女」「そして神戸」「東京砂漠」などヒット曲を連発、NHK紅白11回出場を果たし、20年間第一線で活躍した。現在も歌手として舞台上で歌い続けている。



CONTENTS

- 1 巻頭随想「わが歌 この道を生きる」 内山田洋
- 2 特集「みちづくしin大分」道守九州会議交流会2005 九州各地の道守600人別府に集い 語る 歩く 道の歴史や文化、地域づくりを探る
- 7 道守会議の輪……くるま座だんぎ、中津街道シンポ シーニックバイウェイ 九州、東京で活発な議論を展開
- 9 「私たちの道守活動」紹介
- 12 わたしの好きな道 鳥の視線で壮大な自然を満喫 県道熊本・高森線～俵山峠越え 一田功子
- 13 街道を行く……「長崎街道」
- 14 海外道事情 米国 地域の価値を高め、旅行者を呼ぶ道 シーニックバイウェイ最前線
- 15 ご存知ですか 地域の道路美化活動を支援する仕組み ボランティア・サポート・プログラム
- 16 道守たちのトピックス/人物伝
- 17 道守九州会議会員募集中/お知らせ



表紙画:久富 正美
1935年福岡県生まれ。
「小さい旗」同人。
グループ「五架会」会員。



オープニングセレモニーの様子

みちづくし in 大分

「みちづくし in 大分」道守九州会議交流会2005

「道には出会いがある、地元の人と話すことが大事」
 記念講演・吉田寛氏

「みちづくし in 大分 道守九州会議交流会2005」
 (道守九州会議など主催、ツーリズムおおいた共催) が10月6・7日の2日間、大分県別府市で開かれた。九州各県から「道」に関わるボランティア団体・個人の道守会員ら約600人が参加。シンポジウムや視察、バスツアーやウォーキングなどを通して道路の景観や交通のあり方、道を舞台にした地域づくりを語り合い、交流した。



来年の開催県・長崎へバナーをリレー



現地学習会風景 (別府)



道守活動を紹介するパネル展も開かれた



分科会風景 (第6分科会・そだてる)



分科会風景 (第3分科会・たのしみ)



6分科会の座長による全体報告会



現地学習会風景 (竹田)



道守九州会議総会では活動の広がりを確認

道の歴史や文化、地域づくりを探る

1日目

道がもたらした出会い
 意見交換会、おもてなし

みちづくし in 大分
 道守九州会議交流会2005
大会宣言

- 一、私達道守は、ゴミのない花の咲く道をつくらう
- 一、私達道守は、やすらぎの暮らしの道があるこうえ
- 一、私達道守は、歴史や文化の道をたのしもう
- 一、私達道守は、美しい道・感動の道をながめよう
- 一、私達道守は、元気・にぎわいの道をつくらう
- 一、わたしたち「こども道守」は、きれいな道と心をそだてよう



大会宣言を発表する桑野和泉道守大分会議代表世話人



コピーライター・吉田寛氏の記念講演

交流会初日は、参加者一人ひとりが主役の分科会からスタートした。昭和初期の雰囲気が残る聴潮閣(国登録有形文化財)な別府市内6会場で、テーマごとに各地の実践報告などを交えながら熱のこもった意見交換を行った。(次ページに要旨を掲載)

子高齢化の進むなか、地域間の交流を活性化するためにも道守活動を進めよう」と呼びかけた。コピーライターで地元ラジオのパーソナリティを務める吉田寛さんが記念講演。「道には出会いがあり、地元の人と話すのが大事」と大分弁を交えながら軽妙・洒脱に訴えた。「要らんことを言うのがおじさん、突っ込むのはおばさんが大分人」などと番組投稿の夫婦の会話を立て続けに披露、爆笑の講演会となった。

「みちづくし in 大分」の2日目は、大分県内の道守活動を学ぶバスツアーを開催。別府・湯布院・日田・杵築・臼杵・竹田の6つのコースに分かれ、参加者約130名が朝から出発した。

ウォーキングの別府コースには約25人が参加。メイン会場・ピーコンプラザの展望台の別府眺望からスタートし、山の手レトロ・竹瓦温泉・別府駅界隈を歩いた。ちよつとした石垣に「別府石。淡いピンクなど3色が特徴」「別

府球場跡。西鉄ライオンズの稲尾も練習した」と案内役は観光ボランティアの野芳弘さん。路地裏にも進み「こんにち」は「こ苦勞

「九州の道守さんたちですよ」一こんな会話が続いた。現在、別府のボランティアガイドは100人を超え別府八湯などを歩きながら案内。路地守・道守・町守役を果たしていることを参加者に印象付けた。

分科会風景 (第6分科会・そだてる)

交流会開催に尽力した大分の道守の広がりや深まりを報告した。夜の交流集会は、道守大分のメンバーが県内の道の駅などから集めた特産品や地元料理、焼酎・地酒などでもてなし、日頃の活動をねぎらった。最後に新調のみちづくしのペナントを来年開催の長崎県の道守代表に手渡し、活動の発展と再会を誓い合った。



交流会開催に尽力した大分の道守

「こんにちは」「こ苦勞さん」大分の道と人を感じる



JR湯布院駅前の現地学習会風景

一番人気は湯布院コース。約30人がマイクロバス2台でNHK朝の連続テレビ小説「風のはるか」の舞台となった牛喰い絶叫大会会場や亀の井別荘を訪ねた。道守大分会議の桑野和泉代表世話人と由布院観光総合事務所の米田誠司事務局長の案内で、歩いて楽しい町づくりを進める湯布院の町並みを散策した。他のコースでも、現地の案内人の先導でボランティア団体の活動の説明を聞いたり、歴史の道や史跡を散策したりと、大分の人たちから心あたたまるおもてなしを受けた。



道は古くから祭りや市など人々が集いにぎわう広場、暮らしや文化交流の舞台だった。第3分科会は、道が持つ資産を地域づくりに活かす方法、道が作る地域の魅力などを話し合った。二葉の里歴史の散歩道（木村さん）、日田・豆田地区の町並み（石丸さん）、日向往還（山下さん）など歴史を活かした道づくりを発表。また道の駅・許田の特産品イベント（比

「パネリスト」◎中村幸子（道守九州会議交流会2005実行委員会代表世話人、熊本）船崎美智子（中国・みちづく女性会議世話人）山口・八頭司美紀（NPO活気会理事）佐賀 牧圭子（ケアサポート恵）詠田トキ子（みやざきフラワーロード・ネットワーク事務局）宮崎 東川隆太郎（まちづくり地域フォーラム・かしま探検の会専務理事）鹿児島

「パネリスト」◎三原ユキ江（道守佐賀会議世話人、NPO活気会理事）佐賀 今泉重敏（NPO地域交流センター理事）福岡 福山貞子（牧瀬台代表世話人）佐賀 田口昭子（環境美化を考える会会長）長崎 西岡三子（ボトスの会代表）熊本 中川公生（生石港友会会長）大分 矢野初美（北川道づくりを考える女性の会会長）宮崎 山内芳一（礼元商工親睦会顧問）鹿児島

「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島

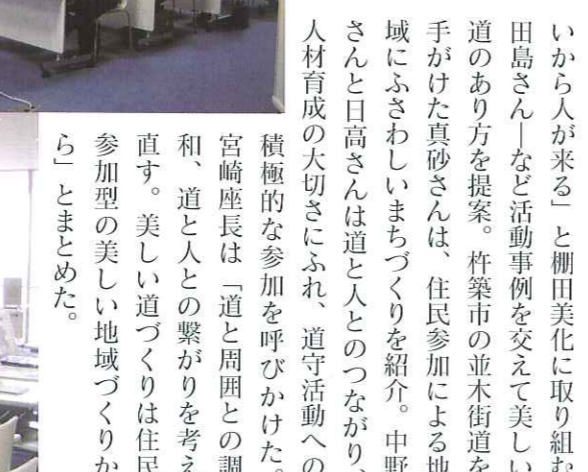
第3分科会 たのしみ 「楽しみ・活気の公空間」

聴潮閣・約500名



第4分科会 ながめる 「美しい道、感動の道」

おさる館 約60名



美しい道がつくる地域の魅力、通行者に心地よさ・癒し・感動を与える美しい道について考えた。「感動の声があがるような道づくりを」と四万十川の自然観光地事業に取り組む佐竹さん、「周囲とマッチした、心で感じられる道づくり」と山田さん、「美しい道が

いから人が来る」と棚田美化に取り組む田島さんなど活動事例を交えて美しい道のあり方を提案。杵築市の並木街道を手がけた真砂さんは、住民参加による地域にふさわしいまちづくりを紹介。中野さんと日高さんは道と人とのつながり、人材育成の大切さにつれ、道守活動への積極的な参加を呼びかけた。宮崎座長は「道と周囲との調和、道と人との繋がりを考え直す。美しい道づくりは住民参加型の美しい地域づくりから」とまとめた。



道守と行政・市民団体との協働がメインテーマになった。「通って楽しい通楽路プロジェクト」で子供たちと高齢者が通りを介して自然に交流するようになった（今泉さん）、道の薔薇づくりがバラバラな人々を繋ぎ、バラ色の人生と道づくりがドッキング（山内さん）、花植えや清掃活動の後はお茶や手作り菓子で話はずむ（田口さん）、記念樹の桜並木をお



「パネリスト」◎阿野史子（道守長崎会議代表世話人、NPO34ワークショップ実行委員会代表）長崎 木村三喜男（広島市東区役所政務課）長崎 比嘉雅貴（道の駅許田駅長）沖繩 峰敏江（さくら博覧会）大分 山下泰雄（日向道徳彰会事務局）熊本 石丸邦夫（日田市観光協会会長）大分 片野坂千鶴子（NPO法人みやざき子ども文化センター）宮崎



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島

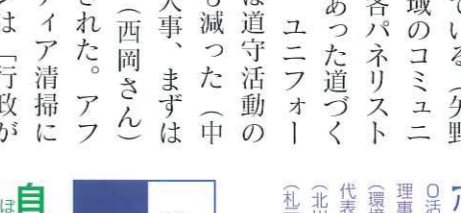
「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島

第1分科会 つくる 「一緒につくる道」

ピーコンプラザ・約1100名



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島

「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島

別府の名所を会場に 六分科会、440人が 意見交換



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島



「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島

「パネリスト」◎宮崎和恵（道守大分会議会員、シティ情報おいた編集発行人）大分 佐竹肇夫（中村商工会議所顧問）高知 山田三子（道守柳川ネットワーク代表）福岡 中野勝利（鳥原市教育委員会）長崎 真砂矩男（きつき並木街道100人家会長）大分 日高晃（橋通りフラワーロード推進協議会代表）宮崎 田島直美（入来町女性団体連絡協議会会長）鹿児島



伊万里市でワイワイ「みち」語り



佐賀県伊万里市で11月23日、「みち」をテーマにした「くるま座だんぎin伊万里」(主催:ロードネット佐賀)が開かれた。特別ゲストは宮田年耕九州地方整備局長、川上義幸佐賀県副知事、塚部芳和伊万里市長。衆議院議員の保利耕輔氏、広津素子氏もかけつけた。宮田局長による道づくりと街づくりをテーマにした「くるま座勉強会」に続き、参加者がひざを突き合わせ、くるま座となつての意見交換。ゲスト陣の専門的な意見の中、高校生の「今のままの道でいい」発言に会場の雰囲気が一気に和らぐ一幕も。談義の後は、食の街を宣言する伊万里市の婦人会による薬膳料理で「くるま座交流会」を実施。おいしいものを食べるときも、道の話をするときも参加者はみな笑顔。「みち」をネットワークにいつそう交流を深めた。

「みち」の観点から街づくり 中津街道シンポ

福岡県豊前市の天地山公園で10月29日、中津街道シンポジウムが開かれ、約100人が参加した。豊前市の市制50周年を記念し「豊前市カラス天狗祭り実行委員会」が企画したもの。当日は子供供楽、猿まわし、踊り等の多彩な催しが各地で行われた。

白石道雄 道守九州・ふくおか両会議世話人(道の駅豊前おこしかけ駅長)が「中津街道により豊前の街が発展。今後も『みち』を通じて地域連携や街づくりを考えることが必要」と問題提起。パネリストでは、河野雅也西日本工業大学教授をコーディネータに、ダイハツ車体の細野泰男常務取締役、豊前の国建設倶楽部の木ノ下勝矢理事、作家の棧比呂子氏、豊前商工会議所の秋吉直人会頭、(社)豊前青年会議所の元理事長の大江恵子氏、寺本直孝北九州国道事務所事務所所長が登壇した。東九州自動車道の建設や自動車の産業の立地などにふれ、街づくりを「みち」の観点から語り合った。



シーニックバイウェイ 九州、東京で活発な議論を展開

12月7日、東京で国土交通省主催の「シーニックバイウェイ(仮称)戦略会議」が発足した。トヨタ自動車と奥田会長を委員長に、九州からは玉川孝道道守九州会議副代表世話人(西日本新聞社副社長)が委員に就任。戦略会議では、シーニックバイウェイのコンセプトや進め方などの検討を行いつつ、平成18年度にはモデルルート公募なども行っていく方針。

福岡市で「第2回シーニックバイウェイ九州研究会」(道守九州会議など主催)が9月26日に開催され、道守会員ら約100人が参加した。第1回研究会でも取り上げたシーニック発祥地・アメリカや日本で先行している北海道の取り組みなどを再確認。また、シーニックバイウェイの地域指定を目指す沿道の清掃活動や写真展、スタンプリリーなどを行う日南海岸(日南市)、国体道路(福岡市)の取り組みを発表した。会では今後事例調査を重ね、九州でのシーニックバイウェイの在り方を議論していく。



みちの分科会ダイジェスト

国や地域の交流を促す道の役割、鉄道や船などの交通との連携という視点から地域に活力・元気を与える道について議論した。地元の高橋さん、富高さんが「高道道路のない地域だが、道路づくりの勉強を通じて地域交流を広めている」と報告。有明海沿岸の市町村交流に携わる池田さん、肥後と薩摩を結ぶ肥薩おれんじ鉄道の運営に関わる岡田さん



「パネリスト」◎神足博美(道守大分会議世話人、大分合同新聞編集局報道本部長)◎大南信也(NP)◎クリンバリー理事長◎徳島 池田慶子(ロードネット佐賀)◎佐賀 岡田敏代(おれんじ鉄道八代駅代表)◎熊本 堀幸子(中九州横断道路早期完成を願う女性の会長)◎富高かをる(蒲江道づくりを考える女性の会長)◎大分 和田皓(日南海岸活性化協議会会長)◎宮崎



第5分科会 おこす 「活力、元気を興す道」 別府市中央公民館・約500名 道が生む交流と創造 発展は道守の役割

んは、地域間のネットワークが生む交流の魅力が話した。道に関わると地域の問題が身近になる(大南さん)、道そのものが観光、地域活性化の源(和田さん)など、地域づくりと道の関わりを再確認する意見も。神足座長は「道は地域の文化や人を繋ぐ。道づくりは地域づくり。交流・連携・創造という道の役割を守り、発展させるのが道守の役割」と結んだ。



第6分科会 そだてる(新しい力) 「子どもが主役の道づくり」 ビーコンラサ・約1200名 (別府市青山小学校4年生児童56名他) 子どもたちに道しるべを 大人は襟正せ 各地で道や地域づくりに参加する子どもたちが増えている。何をもちたらすのか、道守活動を通じた児童の社会体験、学内や地域との絆などについて話し合った。仁田君、大谷君、赤木さん、永尾君が地域清掃などの活動報告とその感想を発表。児童と活動を共にする岡本さん、吉

野さんは「大人がゴミを捨てて子どもが拾う」現実を訴え、会場の児童からも「ゴミのない道路が好き」「どうして捨てるのか」など率直な意見が出た。参加した先生も「大人が良い見本を」と呼びかけた。亀野座長は「子どもたちの『捨てるも捨てるのは大人』という言葉が全て。今のままでは彼らも無責任な大人にならなければ」と取りまとめた。





「路がもたらす地域文化と発展」 東九州道の建設促進決起大会でシンポ開催

東九州自動車道の整備を求める京築地区10市町が11月26日、建設促進の決起大会を福岡県荊田町で開き、1200人が参加した。九州で約191万人の署名を集めた運動に携わった同地区の美夜古、豊前の両青年会議所の協力で、道守関係者も交えた初めてのシンポジウムを実施。「路がもたらす地域文化と発展」というテーマで、活発な意見が交わされた。発言の要旨は次の通り。

191万人の署名を持って九州の情熱を中央へ届ける

東九州道建設促進の署名運動を先導した(社)美夜古青年会議所の植村理事長は、191万人の署名を持って国土交通大臣などへ要望したことなどを報告。地域問題ではなく九州が一体となった取り組みの結果であることを力説した。また高速道路が災害や救急医療などのライフラインの役割も果たすことにもふれ、九州一体となった活動が重要だと訴えた。

小粒でもキラリと光る魅力、循環型ネットワークで実現

道守大分会議の代表世話人でもある(社)ツーリズムおおいたの桑野会長は、目的地へ行くだけの従来の観光から、エコ産業観光やグリーン、ブルーツーリズムなど、小粒でもキラリと光る地域の魅力を求める観光へと変化していることに加え、「点から線、そして面への展開といった循環型の道路が必要。道路が広がることで観光にも物流にも効果が現われる」と述べた。

情熱を持って盛り上げよう

(社)九州・山口経済連合会の古賀専務理事は、「社会資本整備は経済波及効果をもたらす。先端産業などが集積する東九州には高速道路が早期に必要な。今後は循環型ネットワークの形成で対アジア交易をにらんだ推進をしていきたい」と述べた。また勝負のカギは九州の情熱をいかに示すかで、完成後の使い方を考えていかねばならないと強調した。

新会社と一体となった整備を進めます

九州地方整備局の宮田局長は、道路四公団民営化議論で東九州自動車道の整備が遅れている経緯や、10月の民営化で3会社と1機構に整備区間を明確に振り分けた点を説明。九州では西日本高速道路株式会社による従来方式(有料道路)と国土交通省直轄の新直轄方式(無料道



路)の2方式による整備、税源譲与による自治体の懸念の払拭などを紹介した。

最後に玉川コーディネーターは「東九州地域だけでなく、九州全域の問題として、九州はひとつの情熱を持ち、力強い運動を推進しよう」と締めくくった。

「パネリスト」古賀司(社)九州・山口経済連合会専務理事▽宮田年耕(国土交通省九州地方整備局局長)▽桑野和泉(社)ツーリズムおおいた会長▽植村敬満(社)美夜古青年会議所理事長
【コーディネーター】玉川孝道(西日本新聞社取締役副社長)

署名総数1,891,320名(9月末) 東九州道の実現に向け、道守も協力

6月1日から4ヶ月間、東九州自動車道の早期実現に向け100万人署名運動が行われた。沿線となる福岡、大分、宮崎、鹿児島県の4県をはじめ、長崎、佐賀、熊本で道守会員・団体も多数協力した。9月末までに集まった署名は189万1,320名。11月末の時点では約191万名の署名が集まっている。



私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合おう。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいる。スタイルもアイデアもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告 鹿児島編

道守かごしま会議 おおすみ分科会を設立 広域で独自の道守活動を展開

道守かごしま会議は、2004年7月7日に発足。道守九州会議設立当初から参加する3団体、ボランティア・サポート・プログラムなどで活動する9団体、道づくりに関わる個人ら約40名でスタート。昨年8月には道守、市民、行政による意見交流会を開催するなど、さらなる活動の輪を広げています。

2団体が道路功労者の表彰

薩摩半島と大隅半島を有する鹿児島県では道守会員が広域に及ぶため、昨年2月に道守かごしま会議をおおすみ分科会を発足しました。この分科会設立が、独自性と厚みのある活発な道守活動へとつながっています。



おおすみ分科会の各団体では、道路植栽帯にバラの植樹や草花の植え付けを行ったり、駐車場のトイレなどに気持ちよく利用できるような花を生けたりする活動を実施中。このような活動が認められ、平成17年度の道路功労者として「札元商工親睦会」「協和地区公民館」の2団体が日本道



道を歩く」を開催。熊本や福岡の活動団体と連携し、県内外から約180人が参加する大会となりました。歴史街道はいわば往年の国道。先人たちが歩いてきた道の空間であり、史跡や伝説が数多く残されています。今こそ、地域に残存する歴史街道を顕彰・保存していく時期なのではないでしょうか。

「薩摩街道を歩く」
「サミット開催」
薩摩街道は、鹿児島西田橋から熊本を経て長崎街道と合流し、小倉に至る歴史街道です。2001年に薩摩街道保存会(丸目直樹会長、会員数170人)を設立。消えかけた薩摩街道の清掃や薩摩川内市内に50カ所の道標を建立するなどの活動を行ってきました。昨年10月に薩摩川内市で「九州サミット 薩摩街道を歩く」を開催。熊本や福岡の活動団体と連携し、県内外から約180人が参加する大会となりました。歴史街道はいわば往年の国道。先人たちが歩いてきた道の空間であり、史跡や伝説が数多く残されています。今こそ、地域に残存する歴史街道を顕彰・保存していく時期なのではないでしょうか。



鹿児島まるごと博物館 (鹿児島)

道が結ぶ町に残る、貴重な物語を未来へ。

必ずどこかにつながっている道。結ばれている各地域の歴史は様々なエピソードで豊かに彩られてきました。各地に残る景観や建造物は守っていきべき地域の資源。そう考えると、鹿児島全体がひとつの博物館に思えてきます。私たちは道を通して各地域の物語をひとつにつなぎ、多くの人々に知ってほしいと鹿児島市内で活動しています。これまで3回ほど鹿児島県道事務所周辺の道を地域の方々とともに歩くイベントを開催しました。コースは現在の国道10号バイパス沿い。江戸時代には芝居小屋が建つなど興味深いエピソードも多く、参加者も「へえ〜」を連発していました。



鹿児島にはまだまだこうした物語がたくさん眠っているはず。これからも新たな驚きを発見し、多くの人たちに伝える活動を続けていきたいと思っています。

(東川 隆太郎)

立場茶屋銀杏管理運営委員会 (福岡)

長崎街道の難所
「石坂急坂」をキレイに



北九州市八幡西区石坂にある銀杏屋はかつて長崎街道の黒崎宿と木屋瀬宿の間の立場茶屋として、参勤交代の諸大名や長崎奉行などが休憩した屋敷です。庭に樹齢300年以上の銀杏の大本があるため、銀杏屋敷とも呼ばれています。屋敷がある上石坂の地は大名も駕籠から降りて歩いた「石坂急坂」の頂上。坂は平成11年3月に石畳と石段に改修され、同年7月に屋敷も文化財「立場茶屋銀杏屋」として修復されました。私たちはこの坂と屋敷の管理業務を行い、毎月末には「石坂急坂」の落ち葉掃除や植え込み、草刈りを実施。見学者の案内やイベント運営にもボランティアで携わっています。

小倉と長崎を結ぶ240kmの長崎街道は「文明の道」「歴史の道」として、重要な役割を果たしました。「石坂急坂」はその中のわずか150mですが、地域の宝として大切にしたい、未来に残したいと、みんなで協力してがんばっています。(中川 良昭)



有明の海を守るふれあいの会 (佐賀)

がんばっています！
国道203号沿いの森づくり



私たちの会は有明海に注ぐ六角川水系の多久市、小城市、江北町、福富町の住民たちで結成しました。1999年から有明海河口の清掃や、環境シンポジウムをスタートしています。3年前からは新たな事業として植樹を始め、佐賀弁で「みんなで木を植えましょう」という意味も込めてイベント名は「植友祭」と名づけました。今回で6回目を数えた植友祭、すでに植樹の数は計16450本に。参加者数も一般市民の皆さんはもとより、相談に乗っていただいた市や町、国土交通省武雄河川工事事務所の皆さん、九州ふるさと森づくりを展開中の九州電力佐賀支店の皆さん、環境系NPOの皆さんなど、延べ2700名を超えています。おかげで立派な森の実現まであと一息。もう夢ではありません。緑豊かな森の中のドライブを想像しながら、みなさんと力を合わせて草刈りに励んでいます。(川内丸 信吾)



うまちかプロジェクトチーム (長崎)

道路利用者と管理者が
知恵を出し合う道づくり



私たちの長崎市新大工商店街は国道34号と長崎バイパスにつながる道路が交差する位置にあり、長崎でも有数の交通の要所として知られています。買い物客の足である電停からは馬町地下道が唯一のアクセスですが、老朽化により安心・安全な道とはいえない状態でした。そこで平成15年から管理者である国土交通省と地元商店街の青年部が協力して、すぐに実行できるリニエール対策を検討。調査活動や市民の方を交えてのワークショップを行っています。活動をきっかけに周辺の植栽など美化活動にも取り組むようになりました。昨年は地下道のパネルを入れ替えて、地下道の雰囲気明るくキレイになったと利用者のみならずにも好評でした。今年は分かりやすい案内板の設置をめざしているところ。「地域の道は地域で守る」の心意気で、これからもがんばります。(佐藤 洋二)



きつき並木街道100人衆 (大分)

城下町きつきの街道を
たくさん緑で包もう



「街を花で飾ろう」とグループを結成。毎回約500名が集まり、杵築市大内を通る国道213号線にコスモスや菜の花を育て始めて18年になります。6年前には「幹線道路に街路樹を植え、百年先まで残る並木をつくらう」を合言葉に、緑豊かな杵築市を思い描く有志が集まりました。活動基金としてひとり一万円の拠出で100人が集い、10年間で基金は一千万円に。これを基本財源に行政機関への働きかけを続け、緑豊かな風格ある街づくりをめざして地域住民が希望する街路樹を植えています。

これまで県道両側500mにモミジバフウ66本、市道650m両側にクログアネモチ100本、国道片側1200mにウバメガシ55本、同じく片側1500mにラカン楨45本を植栽してきました。



私たちの動きに行政が応じてくれたことや、植栽後の管理を通じて地域の輪が広がっていることを喜んでいます。(貫砂 矩男)

街道並木樹を守り育てるボランティアの会 (熊本)

歴史の道に新しい息吹を
蘇れハゼ並木



旧国道57号沿いの熊本市龍田町弓削校区を通るハゼ並木道(旧大津街道)。江戸時代、赤穂浪士47名のうち17名がご沙汰前に肥後細川藩預けとなり、手厚い処遇を受けたことに感謝して藩に贈ったもので、清正公の杉並木とともに大津街道を行き交う人々の心を和ませたそうです。そのハゼ並木がつるや雑草に絡まれていたのを目にして、「森の都・熊本」の街道並木樹がこれぞよいか、という思いから立ち上げたのが当会です。会員は弓削校区居住者を中心に47名。弓削校区を通る並木道約2kmの枯木跡に約200本を植栽して以降、年4回以上の清掃、草刈、補植などを行い、並木の保護と景観美化にあたってきました。活動の目的も郷土旧跡の保護育成、「森の都・熊本」の魅力づくり、排気ガス緩和による地球温暖化防止と大きく持っています。夏は緑に輝き、秋は赤く燃えたつハゼ並木は今、ボランティアの手によって蘇りつつあります。(黒木 嘉次郎)



私たちの会は有明海に注ぐ六角川水系の多久市、小城市、江北町、福富町の住民たちで結成しました。1999年から有明海河口の清掃や、環境シンポジウムをスタートしています。3年前からは新たな事業として植樹を始め、佐賀弁で「みんなで木を植えましょう」という意味も込めてイベント名は「植友祭」と名づけました。今回で6回目を数えた植友祭、すでに植樹の数は計16450本に。参加者数も一般市民の皆さんはもとより、相談に乗っていただいた市や町、国土交通省武雄河川工事事務所の皆さん、九州ふるさと森づくりを展開中の九州電力佐賀支店の皆さん、環境系NPOの皆さんなど、延べ2700名を超えています。おかげで立派な森の実現まであと一息。もう夢ではありません。緑豊かな森の中のドライブを想像しながら、みなさんと力を合わせて草刈りに励んでいます。(川内丸 信吾)

ひかり児童館児童クラブ(宮崎)

子どもたちに恥ずかしくないよう、
大人こそ率先してゴミ拾いを。

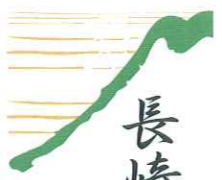


私は宮崎県北部に位置する北浦町の「ひかり児童館」内の児童クラブ指導員です。学校での授業を終えた子供たちが「ただいま」と帰ってきて、仕事を持つ両親が帰宅する時間帯までお世話をしています。私たちが長期に渡って取り組んでいるのが、月に一回土曜日に行っているクリーン作戦です。クラブから半径約1km内の道路でゴミ拾いを行っています。子どもたちからは「拾っても拾ってもゴミが減らない」「タバコの吸い殻がたくさんある」等、毎回いろいろな声が出ます。走行中の車窓から空き缶を投げたり、火のついたタバコをポイ捨てしたり。大人がこれでは、子供たちに指導なんて恥ずかしくてできません。襟を正すべきは、私たち大人です。道路はゴミ箱ではありません。大人の自覚が大切です。さあ、そこにあるゴミや空き缶を拾いましょう。子供の目の前で。そして誰かが見ていなくても。(村田 富子)





日見峠から長崎市内を望む。



長崎街道の今

長崎市・矢上宿

西原村のシンボル俵山（1095m）は阿蘇カルデラの南部に位置し、阿蘇南外輪山の中でも人気の山である。米俵を重ねた姿に似ていることから俵山と名がついたそうだが、春には若葉が目まぶしく、夏には山々の間を抜ける風が草や木々の香りを運び、秋にはオミナエシなどの草花が可憐に咲く。冬の野焼きの頃には、阿蘇の山々が炎に包まれる神秘的な風景を見せてくれる。

その俵山の峠を越える道が私は好きだ。ただ、その穏やかな風景に反し、越えるのは大変である。初心者マークの車にはちよつと厳しいヘアピンカーブが続く、車同士がやつとすれ違えるような狭い箇所がいくつもある。土日ともなると渋滞をまぬがれない道だったが、2年前に西原から南阿蘇村方面に抜ける俵山トンネルができてからは車も減り、静かに自然を味わえるようになった。

西原村側から草原の道を車で登り始め、まずおすすめは扇坂展望所。360度のパノラマが広がる。お天気に恵まれれば、



春のゴールデンウィークの頃には目にも鮮やかなグリーンが広がる



鳥の視線で壮大な自然を満喫

県道熊本・高森線～俵山峠越え



俵山からのぞむ壮大な風景。時を止めてずっと眺めていたい

熊本市内はもちろん、遠くは長崎や雲仙、さらにはきらめく有明海をも見渡せる。夕陽と夜景の名所としても名高い場所である。地球が丸いことを再確認したあとは、次の絶景ポイント・俵山峠展望台に向かう。ここでもまた感動的な風景が待っていた。眼下に静かに広がる南郷谷。太陽から降り注ぐ光が放射状に緑の大地に伸び、空と地上を結んでいる。地上の隅々までいきわたる大自然の愛情を感じ温かい気持ちになる。

このままずっと眺めていたい気持ちを抑え、南阿蘇村に向かい下り始める。ここからの道もまたすばらしく、特に秋には太陽とすきが折リなす幻想的な風景が広がる。昼には太陽の光を受け、一面銀色に輝き、夕陽に染まる頃には黄金色の海の風景を見せてくれる。

この道は私にとって、レジャーというよりも、自然に飢えたときや人生の節目に訪れたい大切な道となっている。雄大な自然が元氣や勇氣を与えてくれるとともに、生かされていることへの感謝の念を思いおこさせてくれる道なのである。



いちだ たかこ 一田 功子 プロフィール

大阪府生まれ。熊本市育ち。東京女子大学卒。東京で約20年にわたり、教育・環境に関するボランティア活動が続ける。その後熊本に戻り、故郷の宝を掘り起こす活動に目覚め、道守くまもと会議事務局、道のフォーラム実行委員、くまもとの道を語る女性の会などに所属。情報誌やホームページを通して地域の宝を紹介する活動も展開中。

天領・長崎を守っていた、「西の箱根」と呼ばれた峠

東西の外国から伝来した文化が今も共存する長崎。町は江戸時代、幕府直轄の天領になってから昭和初期まで九州で最も大きい都市だった。しかしそれ以前は貧しく小さな漁村だったという。長崎の町の歴史に詳しい「財」ながさき地域政策研究所の理事長・脇田安大氏によると「長崎の発展は約400年前、平戸にあったポルトガル商館が移動して出島が完成した頃から始まります。鎖国はしていましたが、海外との貿易は幕府にとって大きな財源。ではなぜ小さな漁村を大事な玄関口に選んだのか？それは簡単に出入りできない土地だったから。外国人が国内へ入るのを防ぎ、出島で得た貿易の利益を独占するのに好都合だったからです」。



遵守・長崎の活動にも携わる脇田安大さん。



天領・長崎には城がない。街道の出発点は諏訪神社近くの奉行所と言われている。長崎奉行所跡は現在、長崎歴史文化博物館に。



長崎の出島に着いた海外の文化はこの道を通って江戸へ向かった。向学心あふれる江戸時代の志士らも、この道を通って長崎をめざした。鎖国の頃、世界と日本を結ぶ唯一の道でもあった長崎街道。その出発点と宿場町を訪ねた。

脇田さんも好きだという日見峠は「西の箱根」とも呼ばれる最大の難所。細く曲がりくねった坂道が延々と続く。ゾウも、ラクダも、砂糖も、シーボルトもみんなこの峠を越えて、江戸へ向かった。歴史を拓く一歩にはいつも険しさがついてまわる。



矢上宿入口に遺る番所跡の石碑



往路最初の宿場町 矢上に残る江戸の匂い

日見峠を越えたあたりには位置する矢上町はかつての宿場町。往路最初は最後の番所という重要な役割を担う町だった。今や昔の面影はほとんど残っていないが、地元では宿場町・矢上をテーマにした歴史ある町の見所を訪ねて歩くウォークラリーを開催している。

「私たちが小さい頃は通りの家々の軒先にはんこという長イスが出ていて、誰彼ともなくそこへ座って話をしたり、



番所橋から見るかつての矢上宿。



矢上町自治会長の永田茂人さん。江戸時代は実家が宿を営んでいた。

将棋をさしたり。街道らしい光景もまだ残っています。代表の永田茂人さん。永田さんの案内で訪れた矢上神社には、江戸の頃に伝わった貴重な狛犬や天井絵が残っていた。慎ましいながらも息づく確かな威厳をかみしめながら、永田さんが言う。「今は県外からこの町へ移り住んだ人たちが多く、「風情のあたたかい町ですね」と言ってくれます。私には気づけなかったことですが、うれいものです。やはり江戸の匂いが残ってるんでしょうなあ」。貴重な文化財を修復し、守り、次の世代へ手渡したい。こういって、



矢上神社。鎌倉末期に建てられ、県内でも古い歴史を持つ神社のひとつ。



佐嘉藩藩主早領主が家臣を派遣した屋敷。1874年に改築。

138年、矢上宿の道にまた活気がよみがえろうとしている。

ご存知
ですか？



地域の道路美化活動を支援する仕組み ボランティア・サポート・プログラム

国土交通省九州地方整備局では「ボランティア・サポート・プログラム」をもとに、地域や企業の皆さんに道路美化活動に参加していただき、快適な道づくりを進めています。

139団体約7500人、道守も多数参加

ボランティア・サポート・プログラムは、国が直接管理している道路（直轄国道）を対象に実施される、道路の美化・清掃プログラムです。ボランティア活動を行う「実施団体」が、担当する区域の道路清掃や植樹等を行なうことを「協定」で確認し、協定内容に従って活動を



植樹帯での花の植栽（けやき通り発展期成会）



歩道・植栽等の清掃（大門町寿クラブ）

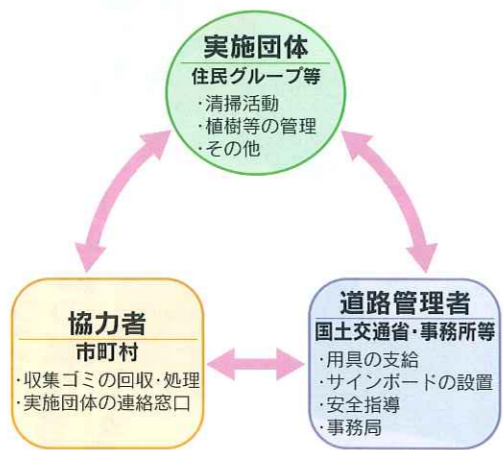
実施します。道路管理者は、清掃用具の支給、実施団体名入りのサインボードを立てるなど、実施団体の活動を支援します。九州では学校、老人クラブ、事業所、地域のグループなど139団体約7500人（平成17年9月現在）が、清掃活動や植樹等の管理を行っています。また実施団体の多くは、道守九州会議の会員としても活動しています。



サインボード（ごみゼロ青春探検隊まえばる）

ボランティア・サポート・プログラムに参加するには

ボランティア活動を希望する企業や地域の団体（実施団体）は、実施する区域や活動内容を決めた後、ボランティア・サポート・プログラムの事務局へ活動の希望を申し出ます。道路管理者（国土交通省）・協力者（市町村）との3者間で協定を結び、文書で決めた内容に基づき清掃や植樹活動などを行います。詳しくは九州地方整備局、または最寄りの国道事務所へお問い合わせください。



■実施までの手順

- ① 事務局に問い合わせ、自分の街でプログラムが行われているかを確認し、申し込み書類等を入手する
- ② 申込書に必要事項を記入し、事務局へ提出する
- ③ 事務局から実施団体の認定を受け、協定を結ぶ
- ④ 必要な道具を受け取り、担当する場所で作業を開始

■申し込み、問い合わせ先
福岡国道事務所 092-681-4731
北九州国道事務所 093-951-4331
佐賀国道事務所 0952-32-1151
長崎河川国道事務所 095-839-9211

熊本河川国道事務所 096-382-1111
八代河川国道事務所 0965-32-4135
大分河川国道事務所 097-544-4167
佐伯河川国道事務所 0972-22-1880
宮崎河川国道事務所 0985-24-8221

延岡河川国道事務所 0982-31-1155
鹿児島国道事務所 099-216-3111
大隅河川国道事務所 0994-65-2541
■問い合わせ先
道の相談室（電話番号下記記載）

● 道路についてのご意見・ご提案・ご相談を受け付けています ●

九州地方整備局「道の相談室」 ☎0120-106-497 FAX 092-476-3514
[24時間毎日受付]

● E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp ● HP http://www.qsr.mlit.go.jp

10月にシーニックバイウェイについてアメリカへ調査に行きました。シーニックとは景観、バイウェイとは、地域と関わりを持たず車が通り過ぎてしまうハイウェイに対する言葉で、脇道を表します。シーニックバイウェイとは、景観や文化、歴史、レクリエーションなどの地域の良さを、その地域のバイウェイを通じて体験してもらおうという施策です。

アメリカでは、連邦道路庁により89年より始められ、日本でも北海道で本格的な施策としてスタートしております。九州でも道守九州会議と合同で、各地でセミナーや勉強会が開かれており、九州でも道守九州会議と合同で、この出張は9日間の行程で、ワシントンの連邦道路庁訪問、アメリカ中のシーニックバイウェイ担当者が一同に会して開催される「全米シーニックバイウェイ会議」への参加、それとグラウンドラウンドシーニックバイウェイ（ミネソタ州ミネアポリス）の現地調査を行いました。

連邦・州の担当者、リソースセンター（専門家派遣などを通じて地域を支援）や地域の観光協会等の人達とさまざまな席を話しましたが、皆、自分



各シーニックバイウェイの紹介パンフレット

の担当地域の良さにプライドを持っており、その価値を高めるモチベーションが非常に高いことに印象を受けました。

また、連邦や州の担当者の多くが、地域のもつ価値をいかに高め、旅行者に知らしめるかというマーケティングの側面を強調しておりました。実際、全米シーニックバイウェイ会議の展示ブースでは、美しい写真と旅行者行程案、見所を分かりやすくまとめたパンフや紹介用のビデオが多数紹介されていました。

州の担当者や観光関係者、NPO等の地域の方々のバイタリティーが個々のシーニックバイウェイを動かしているように思われます。

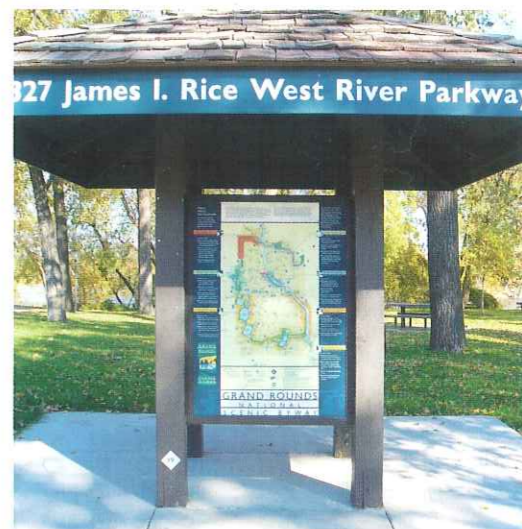
ただ、施策を推進する、というような堅苦しさは全くなく、皆、気取らず自然にシーニックバイウェイを楽しんでいるようです。また、しつこく質問するわれわれにずっと笑顔で親切に対応してくれるのも助かりました。連携、情報の発信、楽しむ姿勢、笑顔、親切、こういったものが見えないインフラとしてシーニックバイウェイを支えているのかもしれない。



ミネソタ州ミネアポリスのグラウンドラウンドシーニックバイウェイ

地域の価値を高め、旅行者を呼ぶ道
シーニックバイウェイ最前線

米 国



「キオスク」と呼ばれる案内施設
（グラウンドラウンドシーニックバイウェイ）

シーニックバイウェイの案内施設（グラウンドラウンドシーニックバイウェイ）



奥村 康博 氏

九州地方整備局道路調査官。道路局地方道・環境課課長補佐、鹿児島国道事務所長の後、2004年4月より現職。

国道35号で児童が道路緑化体験 長崎県佐世保市の潮見小学校の児童143人と保護者らが11月9日、国道35号沿いでピオラ約1100本などを植えた。花や木は国土交通省が提供。「歩くのが好きになりそう」と3年生の児童。

青島パークで花植え 工事中の一般国道220号青島バイパス(3.1km)のパーキングの花壇に、地元自治会、日南海岸青島美化愛護協会、花のまちづくり推進協議会の約20名でパンジー400本を植えた。ボランティア・サポート・プログラムの協定を結び、植換えや管理も行う。

福祉の視点でウォーキング 米生中学校(福岡県大牟田市)の一年生84人がお年寄りや街を歩く「福祉ウォーク」に臨んだ。「普段は何げなく道路を歩いているが、車いすになるとすごく大変だった」と生徒。気づいた個所を元に、来年3月に福祉マップを作成する予定。

JT清掃活動に熊本市民3200人 日本たばこ産業(JT)熊本支店が10月29、30日に実施した清掃活動に、延べ約3200人が参加した。JTが全国で進める「ひろえば街が好きになる運動」の一環。約1600キロのごみが集まった。

日田市で750人が清掃 日隈公民館環境美化推進委員会(大分県日田市)が「ごみゼロおいた」運動の一環として10月23日、日隈校区一斉「環境美化の日」を実施した。住民750人が道路などを掃除。ごみ250袋分を回収した。

「フーボーイ運動」に1万7000人 筑後川・矢部川の河川敷一斉清掃「フーボーイ運動」が10月23日にあり、流域の住民約1万7000人が、延べ約120キロのごみを集めた。今回で20回目。16市町で30リットルのごみ袋約1万5000袋分を回収。

シルバー人材センターがボランティア清掃 福岡県の小郡・大刀洗広域シルバー人材センター会員のお年寄り約10人が10月22日早朝、空き缶拾いや公園の草刈りに汗を流した。センターの活動を地域住民に知ってもらう普及啓発月間行事の一つ。

八女高生徒がお年寄りに交通安全の紙芝居 八女高校(福岡県筑後市)の生徒たちが、交通安全紙芝居を高齢者約60人に披露。オリジナル脚本で「暗がりでは白い服に反射材を」「横断時はドライバリの目を見て」と説明。漫才風の掛け合いに笑いも起きた。「孫ぐらいの生徒が一生懸命やってくれて分かりやすかった」と参加者。

道路サポーター制度を高専生が初利用 清掃用具の貸出や花の苗の提供を無料で行う北九州市の「道路サポーター制度」を高専高校(若松区二島一丁目)が初利用。20人で学校周辺の清掃活動を行った。「制度ができたことで参加者も増えるし、活動もしやすくな

ると思う」と生徒。

「きれいに見せたか」瀬高町で調印式 福岡県・瀬高町の美化活動「きれいに見せたかプログラム」の調印式が10月13日に行われた。同プログラムの参加団体には、清掃や花植えなどの美化活動を行う際、町や国から清掃用具の支給やボランティア保険への加入等の支援を得られる。

ごみを分別収集する環境ロボット 「北九州エコライフステージ2005」で、産学官の連携で開発した環境美化ロボットが披露された。3カ所のカメラでごみを識別しながら移動し、指定した場所まで運んで捨てる。ロボットが次々に拾い、ごみ箱に分別して捨てると、見学者から拍手がわき起こった。

大宰府ボランティア案内1万回 歴史の道の奥深さ、豊かさを語り継ぐ

貞刈惣一郎さん(86歳)福岡県大宰府市

「雨の日も風の日も根性で頑張りました。産学官の連携で開発した環境美化ロボットが披露された。3カ所のカメラでごみを識別しながら移動し、指定した場所まで運んで捨てる。ロボットが次々に拾い、ごみ箱に分別して捨てると、見学者から拍手がわき起こった。」

「雨の日も風の日も根性で頑張りました。産学官の連携で開発した環境美化ロボットが披露された。3カ所のカメラでごみを識別しながら移動し、指定した場所まで運んで捨てる。ロボットが次々に拾い、ごみ箱に分別して捨てると、見学者から拍手がわき起こった。」

「雨の日も風の日も根性で頑張りました。産学官の連携で開発した環境美化ロボットが披露された。3カ所のカメラでごみを識別しながら移動し、指定した場所まで運んで捨てる。ロボットが次々に拾い、ごみ箱に分別して捨てると、見学者から拍手がわき起こった。」

「雨の日も風の日も根性で頑張りました。産学官の連携で開発した環境美化ロボットが披露された。3カ所のカメラでごみを識別しながら移動し、指定した場所まで運んで捨てる。ロボットが次々に拾い、ごみ箱に分別して捨てると、見学者から拍手がわき起こった。」

あなたも九州の道を考え、守ってみませんか？

道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。

道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など



街の活気を地域ぐるみで支える 武町内会(鹿児島県鹿児島市)

広げよう道守の輪

九州各地の多くの方が道を舞台に活動を日々繰り返しています。地道でひたむきな活動ですが、地域の仲間、学校の友達、会社の同僚、市民団体、個人の活動などが、地域に共感と感動を与えています。



道路はみんなの財産。次の世代へつなぐ ゴミゼロ青春探検隊まえばる(福岡県前原市)



共生社会を目指す高校生の地域貢献 聖和女子学院高校(長崎県佐世保市)

道守九州会議 会員募集中!

道守九州会議では、会員の募集を行っております。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせお申し込みください。

※賛助会員(会費あり)の募集も行っています。詳しくはお問い合わせください。

入会申し込み 問い合わせ

(社)九州地方計画協会内 「道守九州会議」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号 TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533 (ホームページも参照ください。申し込みも可能です)

■道守HP <http://www.michimori.com>
■e-mail michimori@michimori.com

「道守通信」 編集後記

シーニックバイウェイ戦略委員会の初会合に出ました。委員長が経団連会長の奥田さん、日本野鳥の会会長で俳優の柳生博さんもメンバーで、国が主催する会議としては異例(?)な談論風発、面白かった。特に、道守九州会議の実績がものを言って、「九州からの発言には大いに説得力があった」と皆さんからほめられた。シーニックバイウェイづくりでも道守活動が主役となります。ちょっぴり、いや、大いに自信になりますね。(編集長・玉川孝道)

「道守九州会議」からのお知らせ

とるば(フォトスポット&パーキング)が全国展開に

道守九州会議では、国土交通省九州地方整備局と連携し「とるば(フォトスポット&パーキング)」情報を募集・提供しています。国土交通省では、この事業を2006年度から全国に展開する予定です。



稿された全ての作品です。ぜひご応募ください。詳しい投稿方法は、とるばホームページをご覧ください。
(<http://www.torupa.com/>)

第2回フォトコンテスト開催中!

地域の魅力をぜひ投稿ください。現在、第2回とるばフォトコンテストを開催しています。コンテストの対象は平成18年2月28日までに投

とるば携帯サイトで音声案内サービス開始!

とるば携帯サイトでとるば情報を音声で楽しめるサービスが始まりました。ぜひご利用ください。
(<http://www.torupa.com/mobile/index.php>)



「とるば」第1回フォトコンテスト
優秀賞作品【夕日と棚田】玄海町役場産業課



佐賀県東松浦郡玄海町浜野浦
浜野浦棚田駐車場から徒歩1～2分

「海に沈む太陽が水田と海面をオレンジ色に
染め上げ、畦道が複雑な陰影を作ります。」



広報誌「道守通信」冬号
平成18年1月10日発行

■発行「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号

TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

●「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

●e-mailアドレス michimori@michimori.com

定価 300円 (消費税を含む)